

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



4月のアルミ概況及び5月の見通し (3)

予想レンジ

LME現物後場買い

スクラップ

為替

2,400-2,600ドル

0~+10万円
(前月最終価格より)

145~155円
(1か月間TTM)

 

 

円安

■国内概況のまとめ

◆自動車生産

生産動態統計によると、3月の自動車生産台数は、前年比+1.5%の68万8,025台。輸出は、前年同月比+2%の33万7,643台。

◆自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、4月の自動車販売台数（軽除く）は、前年比+4.6%の21万7,064台。

◆住宅着工戸数

3月の新設住宅着工は、持家、貸家、分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比39.1%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では、前月比34.1%の増加となった。

○新設住宅着工戸数は89,432戸

前年同月比39.1%増、2か月連続の増加

○新設住宅着工床面積は6,827千㎡

前年同月比40.7%増、2か月連続の増加

○季節調整済年率換算値では1,080千戸。

前月比34.1%増、2か月連続の増加

◆アルミ圧延・押出品生産数

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は、前年比+1.7%の14万2千t。プラスに反転。

板類 8万9,969 t +3.3% プラスに反転

押出類 5万2,051 t -0.8% 2か月連続マイナス

◆アルミニウム二次合金、同合金地金等生産実績

前年比 -1% 5万9,692 t 2か月連続マイナス

出荷 -3.7% 5万6,915 t 8か月連続マイナス

◆輸 出

新地金 -35.1% 211 t

二次合金 -16.2% 652 t

スクラップ -24.8% 2万7,685 t

アルミ缶 -17.7% 5,620 t

◆輸 入

新地金 +53.8% 8万3,936 t

二次合金	+0.3%	8万1,559 t
スクラップ	+113.5%	932 t
合金スクラップ	-6%	6,191 t

■見通し

3月の自動車生産が+1.5%、4月の国内販売台数が前年比+4.6%で販売、生産共に増加。

トランプ関税による自動車販売減への影響に警戒感が高いが、内需の回復と輸出の安定により、全体として前向きな見通しが立てられる。

◆アルミ圧延・押出品生産数

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は、前年比+1.7%の14万2千t。プラスに反転。

自動車材や半導体製造装置向け需要の回復により、2025年6月の生産量は、前年同月比で微増の可能性。

◆アルミニウム二次合金、同合金地金等生産実績

前年比 -1% 5万9,692 t 2か月連続マイナス

出荷 -3.7% 5万6,915 t 8か月連続マイナス

自動車関連需要の影響により、2025年6月の生産量は、前年同月比で横ばいから微減の可能性。

■スクラップ景況予想

流通（一次問屋）在庫は、LME価格が2,518から2,430ドル台と下落局面。

供給は依然として逼迫しており、品薄感が強い状況が続く。

メーカー在庫は、自動車生産の減少やトランプ関税による先行き不透明感から積極的に買いたくはないが他業種の需要増加や脱炭素化に向けたリサイクル原料使用比率の増加などが、需給の引き締まりを助長。

■LME・為替予想

◆LME予想

今月は以下の項目に左右される。

○世界需要の回復（特に自動車産業）：自動車用部品の生産増加や電気自動車（EV）市場の拡大とともに、アルミニウムの軽量構造物材としての需要が上昇。

○供給制限と生産コストの上昇：中国やインドにおける電力制限・環境規制によって、アルミ精錬活動に制約。アルミ精錬には大量の電力を要するため、エネルギー価格の高騰や炭素税の影響で生産コストが上昇し、そのコストが価格に反映。

◆為替予想 145円～155円

○米国の金融政策／利下げ観測の動向：米FRB（連邦準備制度理事会）は、2025年前半からインフレ沈静化を背景に利下げを視野に入れた発言が増加。（次頁につづく）

○日本の金融政策：2025年のその後の経済指標（賃金上昇・物価動向）は鈍化傾向。その結果、6月時点では「追加利上げ見送り」または「金融緩和的なスタンス維持」という観測が広がり、円売り圧力が強まる要因に。

これらを踏まえ今月のアルミ価格を2,400～2,600ドル（セツル）と予測。

ドル円値は145～155円台を予測。

スクラップ購買価格に関しては、据え置きから10円上げを予想。